

られたのがうれしかった。しかし、私達はまだまだこれからだ、もっと、もっと……。(文中敬称略)

(77年9月20日発行機関誌「くるゆり」第3号に収録)

冬山合宿では初めてのバリエー

第5期冬山合宿

甲斐駒ヶ岳

2966m
後藤 隆徳

●釜無川〜横岳峠〜鋸岳〜甲斐駒ヶ岳〜駒ヶ岳神社

▽77年12月30日〜78年1月2日

▽C.L後藤隆徳(20) S.L杉澤康

秀(28) 記録毛利哲也(44) 医療

大橋 孝(20)

「とりくみ」

1、77年8月22日〜23日に後藤隆徳、大橋 孝は角兵衛沢より黒戸尾根を偵察する。

2、77年10月7日〜8日に後藤隆徳、今井芳明は釜無川より横岳峠をへて2670m峰まで荷上げを行つた。

3、77年10月8日〜10日に杉澤康秀、毛利哲也、今井芳明、杉山達は角兵衛沢より黒戸尾根の偵察と荷上げを行う。(山口 清が荷

上げに参加出来なくなったため今井が連続参加した)

4、77年12月30日に桂田昌徳は釜無川林道終点まで車でサポートした。

12月30日(晴)

△タイム▽下土狩7:00〜釜無川林道終点11:15〜出発12:55〜保勝小屋14:00(泊)

6時半下土狩駅に向かうとすでにサポートの桂田が待っていた。「何を待っている?」と尋ねると「皆を待っているんだよ」と答える。「毛利さんは三島から歩いてくるのかなあ〜」などと言っている。どこかで連絡ミスがあったようだ。すぐに三島駅に迎えに行つてもらう。やがて杉澤が現れ、大

橋も御殿場線で降りた。そして出発。見送りは杉澤好子のみ。天候はマアマアだ。桂田のバイオレットは246号線を通り籠坂峠を越え、山中湖を通過して御坂峠にかかる。料金所で「下のほうで事故があったので注意して下さい」と伝言がある。しばらく行くと、6台がメチャメチャになっていた。下り坂の急カーブが凍結してた為らしい。車は20号線に出て釜無川に向かう。左手に鋸岳の稜線が続く。釜無川的林道は、秋よりひどく荒れていた。途中で野生の猿の群れを見る。終点の中ノ川出合に着く。全ての荷物を降ろすと桂田は手を振って帰っていった。腹こしらえをして出発しようとした時、大橋が「アッ」と言った。またやってしまったのだ。テントのポールが無いのである。大橋の話では下土狩の駅では確かに有ったとのこと。きっとトランクの中にあるのだろう。今山行は、ポールが無いと少し困る。桂田がチェイルをはずしてトランクに入れる時気がつき、戻って来てくれるだろうか?いろいろ考えた末、今日の行程は時間の余裕があるので、出発を1時間程遅らせて杉澤と大橋で車を追ったが良い結果は得られ

なかった。(後で分かったが、やはり桂田はチェイルをトランクに入れる時ポールに気が付いたようだ。しかし、またチェイルを付け直し戻す気にもなれず、またポールは不要なもの判断したそうだ。)とにかく我がパーティーは今年もまたポールなしのテントを持つていくことになった。小1時間釜無川をつめると保勝会の小屋に到着。大橋持参のオールドで軽く前途を祝い早々と休む。冬山としては大変暖かく明日の天気も心配だった。

12月31日(雨)

△タイム▽起床3:30〜出発5:00〜小屋戻る5:20〜再出発11:10〜横岳峠12:40〜3角点ピーク(2607m) 15:30〜テントサイト16:00(泊)

この釜無川上流の保勝小屋は屋根と壁はトタン張り、骨組みは唐松の丸太でできた簡単なものであった。以前は立派な建物だったろうか、回りには大きな丸太などの残骸が残っていた。大ききは4人が横になれば一杯になってしまふ。ただ入口の所が土間になっているので焚き火などはできる。夜暖かいと思つたら、朝方より雨になった。トタン張りな